



最近家族間での不幸な事件が続いています。「親がうつつとうしかなかったから」と中学生が父親をナイフで刺したり、また、「逆に反抗したので腹が立って」と母親が息子を刺すという事件もありました。親子関係の根本的などころで、関心がずれているように思えてなりません。思春期の子を持つ親にとつては、他人事ではない切実な問題として考えさせられます。

事件を起こすところまでいかならないまでも、いわゆる「切れやすい」子どものことが気になります。ふだんはおとなしい子どもが、自分の思い通りにならないとき、他人とのコミュニケーションがうまくとれず、かつとなつて行動してしまふ。こうした子どもが増えてくるように思います。

情報化や国際化が進み、多忙で複雑な社会構造の中で子どもたちは様々な苛立ちやストレスを感じ、その重圧のなかで精一杯自己主張しているように思えてなりません。こんなときこそしっかりと受け止めてくれる大人の存在が必要なのだと思います。大人に「もつ

と見つめてほしい」「関わってほしい」「声を聞いてほしい」と訴えているように思います。

波多野ミキ氏はその著書の中で、「子どもが健全に育つためには特定の大人の信頼関係を持つことが大切」と述べています。赤ちゃんはお腹がすいたりおしっこをしたとき、また、寂しさを感じたとき、泣くことで表現します。そして、そばにいる大人がだっこしてあやしたりすることで満足します。幼少期のこうした関係が、後にとっても重要になってくるということです。

子どもが健全に育つためにはこうした親子関係、つまり、親に依存すべきとき十分依存できることが大切です。こうした関係の中で育ってきた子どもはやがて他の人との信頼関係も形成することができ、社会での適応につながっていくことができます。やがて、子どもは親から離れ社会に出て行くわけですが、親に愛されているという「絶対的な確信」により、安定した生活を行うことができますとのことです。多忙化の中で生活にゆとりがなく、ともすると親子の触れ合いが希薄になり、この「絶対的的確信」の部分の薄らいできているのではないかと危惧されます。

つつい仕事優先になりがち忙しい生活の中で、ともすると手を抜きがちな子育てですが、心配な事件が多い昨今、改めて子どもと正面から向き合い、親子の関わりについて真剣に考えていきたいものです。

伝言板

富士・東部保健福祉事務所(富士・東部保健所)

肝炎インターフェロン治療費の助成について

B型肝炎、C型肝炎のインターフェロン治療に対する助成が受けられます。
対象者
○県内に住民票または外国人登録のある方

○B型肝炎慢性活動性肝炎、C型肝炎慢性肝炎及び代償性肝硬変の認定基準を満たし、保険適用となっているインターフェロン製剤による治療を受けられる方

内容
各種保険診療の請求額から世帯の市町村民税額に応じた自己負担額(1万、3万、5万)を除いた額を助成します。
手続きに必要な書類
○受給者証申請書
○診断書
○住民票(申請者の属する世帯全員が記載されているもの)
○市町村民税課税証明書(申請者及び住民票に記載されている世帯全員のもの)
○保険証の写し

肝炎ウイルスの無料検査について

B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス検査が最寄りの医療機関で無料で受けられます。
期間 平成21年3月31日まで
受診方法
○富士・東部保健福祉事務所(保健所)に受診券を電話で申請してください。受診券を郵送します。

○受診券到着後、県と契約を結んでいる医療機関(県内234箇所)で検査を受けます。
対象者
○肝炎ウイルス検査を受診したことのない方
○今年度職場やお住まいの市町村で肝炎ウイルス検査を受ける機会のない方

問合せ 健康増進課 感染症担当
☎0555(24)9035

受付 地域保健課
問合せ 健康増進課
☎055(223)1494

